

大阪府立
光陽
支援学校

タイトル(テーマ)
体を動かして効果音を鳴らす

光陽 No 6 号
平成
30年 2月 6日

対象の児童生徒
小学部 ぎかん
しゃグループ

困り感
自発的な体の動き、表情
の変化が少ない。



取り組みの内容・授業の様子等

①授業の内容：絵本「つのはなんにもならないか」 場面遊び ライオンのお腹に入り、つので布をつく。
②支援のポイント：児童がライオンのお腹に見たてたMESHをつけた布をつのでつくるとライオンの痛がる声が鳴ることで期待感を持たせる。
③使用した機器、アプリ：iPad、MESH本体(動感)、MESHアプリ、スピーカー、布

MESH 動感センサー iPad MESHアプリ 布(MESHをつける)

④支援機器を活用することで改善された点。
・つのでつくるとライオンの声が聞こえてくることで、児童に期待感が生まれ自分から手を動かして鳴らそうとする姿が見られた。つのでつくると鳴るという因果関係がわかる児童はつのを動かしていた。

成果と今後の課題

- ・体の動きが小さくても音を鳴らしやすいが、指導者や別の児童が触れてしまい誤作動することも多かった。
- ・自身の動きで音が鳴ることで自発的な動きが見られた。